

フィレモン書序言

本書をしたためた機会および目的 コロサイの人フィレモンの奴隷にオネジモと言う者があつた。激しく主人に逆らい、刑罰をまぬかれるため脱走してロマに行つたが、神の摂理によつてパウロに出会い、パウロの教訓と洗礼とを受けて忠実に仕えたので、パウロはオネジモを自分のもとに留めたく思ったが、彼の主人フィレモンの許しを得るためにオネジモを主人のもとに歸し、本書をオネジモに託したのである。それゆえ本書の目的は、ただオネジモのために彼に彼の主人の許しを求めることにある。パウロが本書をしたためたのは、ロマでの第一回の入獄の時で約紀元六二年ころである。本書はコロサイ書と同じ時に、同じ人に託されたものであるが、これは実に奴隷廃止を目的とする文書の先駆さきがけで、パウロが仁愛礼儀に富んでいること、文章に巧妙であることが、本書では特に著しくうかがえる。

本書の区分 本書は最も短く、三つに分けられる。第一は例の冒頭（一―三節）に挨拶を含み、次に感謝の文がある（四―七節）。第二は本文で事実を述べ（八―十六節）、オネジモのために許しを願ひ（十七―二十一節）、第三は末文で種々の挨拶と祝禱とを含む（二十二―二十五節）。

使徒聖パウロ、フィレモンに送りし書簡

1 挨拶 1 キリスト・イエズスの囚人たるパウロおよび兄弟チモテオ、われらが愛するところの
 2 助力者フィレモン、最愛の姉妹たるアッピア、戦友たるアルキッポ、2 および汝の家にある教会
 3 に「書簡を送る」。3 願わくは、わが父にてまします神および主イエズス・キリストより恩寵と
 平安とを汝らに賜わらんことを。

4 感謝 4 われは神に感謝し奉り、わが祈りのうちに常に汝を記念し、主イエズス・キリストに
 6-5 おける、5 またすべての聖徒に対する汝の愛と信仰とを聞きて、6 キリスト・イエズスに対して
 われらのうちにある善業のごとく知れわたれることによりて、汝が信仰のほどこしの有効な
 7 らんことをこいねがう。7 兄弟よ、聖徒らの腹わた、汝によりて安んぜられたるがゆえに、われは
 汝の愛につきて大いなる喜びと慰めとを得たり。

8 事実を述べ 8 さればキリスト・イエズスにおいて、事に応じてなすべきところを命ずるは、
 9 わがあえてはばからざるところなりといえども、9 むしろ愛に対して勧め、かくのごとくなるわ
 10 れ、すなわち老人にして、しかも現にイエズス・キリストの囚人たるパウロ、10 鎖くさりにありて生み
 11 したところのわが子オネジモのために汝にこいねがう。11 彼はかつて汝に無益なりしかど、今はわ
 12 れにも汝にも有益なり、12 われはこれを汝に送り返す、願わくは汝わが腹わたのごとくにこれを
 13 受けんことを。13 われは彼をして汝に代わりて福音のために鎖につながるるわれに仕えしむるよ

14 う、われとともに留まらしめんことを欲したれど、
 15 りき。これ汝の善業をして、やむを得ざるがごとくならず、任意ならしめんがためなり。15 彼が
 16 一時汝を離れしは、あるいは汝が永遠にこれを受けて、16 もはや奴隷としてにはあらず、奴隷に
 まさりて至愛の兄弟となさんためにはあらずや。われには、殊にしかある者なれば、まして汝に
 とりては肉身においても主においてもしからん。

18-17 願ひ 17 されば汝もしわれを友とせば彼を受け入るること、われにおけるがごとくせよ。18 彼
 19 もし汝に損害を与え、あるいは負債あらば、これをわれに負わせよ。19 われパウロ手ずから書き
 するせり、われ必ず償うべし。汝がおのれをもってわれに償うべき負債あることは、われこれを
 言わじ。

20 福音 20 しかり、兄弟よ、われは主において汝を楽しまん、こう、主においてわが腹わたを安
 21 んぜしめよ。21 われ汝の従順を信じ、そのなさんとするところは、わが言うところにまされるを
 22 知りて、汝に書き送れるなり。22 さて同時にわがために宿を備えよ、けだし、われはわが身の、
 汝らの祈りによりて汝らに与えられんことを希望す。

23 伝言 23 キリスト・イエズスにありて、われとともに囚人たるエパフラ、汝によるしくと言え
 24 り。24 わが助力者たるマルコ、¹アリストアルコ、デマス、ルカもまた同じ。

25 祝禱 25 願わくは、わが主イエズス・キリストの恩寵、汝らの霊とともにあらんことを、アメ
 ン。

① コロサイ書 4・10